

2017 南九州市フォトコンテスト ～南九州市で撮った“心が動いたこの瞬間”～

市制施行10周年を記念して、一般部門、市の木・花部門、未来に残したい南九州市部門の作品を5月から9月にかけて募集を行ったところ、多数の応募がありました。ご応募いただき、ありがとうございます。9月28日、熊副 穰氏（日本写真家協会会員等）、児玉 龍郎氏（松陽高校非常勤講師等）、市関係者で審査を行い、最優秀賞をはじめとする入賞作品13点を決定しました。入賞者は以下のとおりです。（敬称略）

【総評】

市制施行10周年記念事業として開催されたが、どの作品もレベルはかなり高い。南九州市の自然、産業、行事など活写され、魅力的に表現されていた作品が多かった。

「一般」部門

【最優秀賞】 「祭神の登場」 又木 徹（鹿児島市）



【講評】

川辺町飯倉神社の御田植祭のワンシーン。どこかユーモラスな主役「猿田彦」を正面から大胆に切り撮った1枚。背後には神官がかろうじて見える。一切の無駄を省いたギリギリの構図からは、人々の気配や神事の余韻までも感じさせてくれる。古い面と衣装によって、延々と受け継がれてきた地域の伝統行事の歴史が垣間見える。風格のある写真。

【優秀賞】 「流れる」 松菌 宏貴 (南九州市)



【講評】

番所鼻に打ち寄せる波を高速シャッターで止めないで、スローシャッターで流動的に見せたことで、自然の力強さと、しなやかさ…を同時に表現している。ダイナミックで、美しい波の造形。色調もクールだ。周到的な機材の準備と計算から生み出されたこの1枚から、豊かな表現力と鋭い感性が感じられる。

【優秀賞】 「太鼓に酔った夜」 久保 政行 (薩摩川内市)



【講評】

知覧ねぶた祭りのクライマックス。大太鼓の響きや、「ヤーヤードー」の掛け声まで聞こえてきそうな迫力。周辺には、ねぶたに酔いしれる多くの人々の顔が確認できる。やや俯瞰したカメラアングルと、レンズ選択で、近景から中景・遠景と、何層にも重なっているのにストレスのない画面になった。

【優秀賞】 「自然エネルギーの里」 中川 義昭 (鹿児島市)



【講評】

茜色に染まった空とひつじ雲。息を呑むような圧巻の風景だ。自然がつくり出したこの光景を、見たように再現する「写真力」を感じさせる。風力発電のプロペラを添景として配置したことで、ただの風景写真で終わらせていない。エネルギーの未来までをも表現している。

【佳作】「雲景色」
葛岡 克紀（南九州市）



【佳作】「ヤーヤ ドー」
岡野 公一（南九州市）



【佳作】「幻想的な世界」
高吉 宣良（鹿児島市）



【佳作】「勝目太鼓踊り」
木元 邦義（鹿児島市）



【佳作】「浮辺十五夜ソラヨイ」
諏訪園 保（鹿児島市）



「市の木・花」部門

【茶】^{にこ}「和やかバロン作業」
中川 義昭（鹿児島市）



【桜】「春の笑顔」
辰野 元之（鹿児島市）



【ひまわり】「夏の終り」 隈元 亮一（南九州市）



「未来に残したい南九州市」部門

「小京都の夏風情」 岡野 公一（南九州市）

